

かぞくで考えよう つかう暮らしと世界のつながり ～石けんとパーム油編～
Think about a connection with the world through Soup and Palm oil

日本科学未来館

Miraikan – The National Museum of Emerging Science and Innovation

Goal 12,15

2018年4月1日に、花王株式会社と日本科学未来館の共催で、「かぞくで考えよう つかう暮らしと世界のつながり～石けんとパーム油編～」を実施しました。本プログラムは、日本科学未来館の友の会であるクラブ Miraikan の会員の親子を対象に春休みに行いました。

石けんは何からできていて、原料は何をつかっているのだろう？—石けんは油を原料に作られますが、最近よく使われているのが「パーム油」です。この油は東南アジアで栽培されているアブラヤシという植物の実を絞って手に入れることができます。パーム油は1990年代から使用量が増え、今や世界で生産される植物油脂のトップになっています。しかし、パーム油が世界中で広く使われるようになってから、環境問題や人権問題など、多くの課題が出てきました。これらの課題解決は、SDGsの目指すゴールに通じるものがあります。このイベントでは、私たちに身近な「石けん」を題材に、「パーム油」の優れた特徴と、そのために引き起こされている地球規模での問題について、実験やワークショップを通して学び、私たち消費者には何ができるのか、親子で考える機会を提供しました。

参加した保護者からは、「パーム油に代わる原料として藻を考えているというところが面白かったです」「企業は本来利益を追求するものだと思いますが、資源に限りがあるため代替資源の開発を始めていると知り、共感できました。」という声があり、子どもたちからは、「消費者は少し勝手な気がする」「RSPO マークのついている商品を買う」「今まで知らなかったことを知ることができた」等のコメントがよせられました。

